

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690300021		
法人名	株式会社ユニマツ・リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	京都壬生ケアセンターそよ風(たんぼぼ)		
所在地	京都市中京区壬生天池町24番地		
自己評価作成日	平成30年8月25日	評価結果市町村受理日	平成31年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jigyosyoCd=2690300021-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1「ひと・まち交流館京都」1F
訪問調査日	平成30年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット理念を利用者様に寄り添う介護を目指しますと掲げている。個人、個人の気持ちを大切に、要望に応えられるよう、切磋琢磨し寄り添う介護を目指している。個人個人の役目、リズム、交流、満足が充足出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して12年目ですが、利用者の平均年齢は90歳を超え、要介護度も3.6度超の中で、可能な限り一人ひとりの持てる能力に応じた役割を担って貰い、共に生活する日々を大切にしています。配置基準は確保し保障されていますが、社会的にも新たな人材の採用が難しく余裕のない中、スタッフ相互に補い合って明るい職場環境を作っています。利用者が楽しみにされている食事は、国産の新鮮な食材を使う手作りにこだわって毎食作られています。医療機関との連携は、週4日の医師の往診と週1回の訪問看護で医療体制は充実しています。また、看取り指針に則ったケアで利用者・家族の安心感を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に職員全員で理念の唱和を行なっている。各ユニットごとに職員で考えたユニット理念を入りに掲示し意識を高めるようにしている。	「世界一の幸せ創造企業」を法人の理念とし、グループホームそよ風では開設時の職員で話し合い、ユニット毎に理念を定めている。日常的に利用者への声かけや、微笑みを忘れず一日一回は笑いが出るように理念にそったケアに努めている。	理念は不変のものではなく、時代の変化に応じて世の中の要求を先取りする形で検討することが望まれる。事業所開設以来10年以上が経過したことに伴い、「そよ風」として毎年度、理念の確認をし、新たな気持ちで業務に臨まれることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の地域の学習で訪問を受け、交流を図った。自治会の運動会も毎年招待を受けて朱五まつりにも参加を予定している。	10周年記念行事は、屋台風にして保育園の子どもたちや地域の人にも参加して貰い、盛大に行って利用者も一緒に楽しんで貰った。小学校の運動会、自治会の祭りへの参加で、地域の人との交流が見られる。事業所は自治会に加入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者の日々の生活の報告をし認知症の理解を深めて頂くようお話しさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営の取組、レク報告、事故の状況、対応改善策ひやりの詳細を説明。各出席者には一言ずつ頂き質疑応答を行なっている。	家族全員に会議に備え「出席連絡用紙」を配布し、意見を聞いている。会議では事業所の現況を取り纏めた報告書を配布し説明をしている。看取りの事例をテーマに話し合うこともある。議事録の中に双方向の意見交換の記録が見られない。	地域からどのようなことが期待されているかが議題に出る様な会議の持ち方や双方向の意見交換が分かる会議録が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上記会議は議事録を区の担当課に提出し、質問や分からない事がある場合には随時電話や訪問で助言を得ている。	担当課には運営推進会議の議事録を持参している。いつでも助言が貰える関係ではあるが、管理者が、計画作成や介護まで兼務する状況で、行政主催の諸会議へは欠席しがちである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項に明記し、入居時に説明している。研修は毎年行っており、採用時にも研修を行い報告書を義務付けしている。	「身体拘束廃止」「高齢者虐待防止」の研修を取り入れ「身体拘束0宣言」を行い、意識を高めて仕事に取り組んでいる。安心のため玄関の施錠はしているが、利用者が出掛けたい素振りの時には気分転換に散歩に行ったりユニット間の行き来が自由にでき、開放感を味わえるようにしている。	

京都府 京都壬生ケアセンター そよ風 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は疑いも含め重大な事故と位置づけている。研修や回覧で職員の意識を高めるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に必要な方には後見人制度についてお知らせしている。入居者様の中で利用されている方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点はいつでも連絡頂くようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族面会時には意見や要望を聞くよう声をかけている。	家族の来訪時には必ず声掛けをして、感想や要望・意見を言って貰うようにしている。意見箱や毎年行うアンケート調査ではほとんど要望が出ていない。夜勤の体制や人員体制について不安、との声が聞かれ、対応方法を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員意見を聞くようにしている。また話しやすい雰囲気作りを努めている。	朝夕の申し送り時や毎月のユニット会議・全体会議で職員の意見を聞いている。職員からは、生鮮食材を使った手作りの食事を利用者の喜ぶ顔が見たいとの意見が出され、これを実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の思いを大切に聞き職場環境の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度施設内研修実施。事業所以外の研修を回覧し参加の機会を作っている。		

京都府 京都壬生ケアセンター そよ風 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加を促している。法人でのGH協議会を開催し意見交換、情報交換の場を設けサービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家人への面談聞き取り、居宅ケアマネより情報収集を行いユニットで話し合う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談で十分な聞き取り、相談、提案を行い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子や訴え、家族からの情報等から必要なサービスを見極め提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする事、好きな家事を見極め日常的に依頼するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を詳しく伝え、本人の困りごとの解決の助言を頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のご友人等来訪時にはゆっくりくつろいで頂けるよう面会カードと共にお茶を提供している。	教会や学会の方が逢いに来られた時は歓迎している。家族と一緒に自宅に帰られる方や息子と教会に行っている方もいる。行事で祇園祭を見に行っている。利用者が退院してこられた時、職員の顔を見て笑顔になられる姿に、新たに馴染みの関係ができたことを実感し、遣り甲斐を感じている。	

京都府 京都壬生ケアセンター そよ風 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング席をたまに席替えし、違った方とお喋りの機会を作っている。職員が間に入り話を持ちかけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談の窓口の紹介を行い不安なく次へ移行できるように努め、問い合わせがあれば情報を提供し電話等で確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は関りの中で入居者の言葉や表情、サインを読み取り記録に残し申し送りで周知を図っている。計画へは必要に応じ取り込んでいる。	家族から、利用者の生活歴、利用者の状態を記入して貰ったり、聞き取った情報をもとにして入居者と職員の関係性を高め、日々の生活の中での言葉や表情やサインで利用者の意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方は、家族に聞いたり、その時々の方の意思表示を見逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの暮らし方や出来事を聞き取り、現状で出来る事、気になる事のチェックシートを記入して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活を介護支援経過記録へ記入。普段と違った行動、言動があれば、より詳しく記入を基本とし職員間で共有出来るようしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見は、面会時や電話で聞き取っている。医療情報は診察時や提供表で確認。定期的に見直しを図り検討内容を記録している。	計画作成者が、家族の意向や医療情報を入力し、様々な角度からの情報を収集して入居時のアセスメントシートに基づいて介護計画を作成し、申し送り時に職員に周知している。3ヶ月毎にモニタリングとサービス担当者会議を行い介護計画と「介護援助計画表」を作成し、現状に即した支援が出来るようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録、経過表としてバイタル、食事摂取量、服薬確認、排泄、入浴の有無を職員全員が把握しモニタリングしている。		

京都府 京都壬生ケアセンター そよ風 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に動ける人材、その場で話し合い対応出来る人材の育成に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、看護の定期的な医療援助を行い、マッサージでリラックスの時間を設けて外部との交流の時間を楽しめるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時かかりつけ医の確認と協力医療機関の紹介をし時自由を選んで頂く。往診時は職員が立会い報告し受診内容を記録する。	入居時に受診医療機関の希望を確認し、月2回協力医の往診を受けている方が多い。家族同行でかかりつけ医へ受診される時には、利用者の様子を伝えている。その方も再度協力医にも受診している等、利用者・家族の意に添うようにしている。協力医療機関や訪問看護師共に24時間オンコールである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医院、訪問看護師共に常に24時間報告、相談出来る体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療先の母体病院に入院となっており、入院先主治医、訪問診療Dr、Nsと母体病院で家族を含め話し合いの場を持つ事が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りに関する指針にサイン頂いている。重度化した場合には家族、医師、職員で話し合いの場を持ち希望が有れば特別な医療行為がない限り見取りを行っている。	「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を定め、入居時に利用者・家族に説明をしている。重度化されたときは、家族・医師・職員で話し合いの場を持っている。看取りのケースがうかがわれる時には、職員に対しマニュアルをもとに研修を行い、必要なケアが出来るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故、行方不明のマニュアルが有り、応急手当、連絡はマニュアルに沿って行動する。		

京都府 京都壬生ケアセンター そよ風 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は日中、夜間想定で年2回行なっている。うち1回は消防署員立会いで実施している。	併設施設合同での訓練で、消火器の使い方や避難経路の確認を行い、利用者全員を1階までの避難誘導訓練をしている。自然災害の洪水・地震はマニュアルにそって訓練も取り入れている。備蓄は水や米・カセットコンロ・ケア用品などを3日分準備している。地域との連携はなく、事業所独自の訓練になっている。	訓練の前に地域住民の方に訓練実施のお知らせを配布し、関心を持って貰い協力を結び付けられることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設研修で尊厳、プライバシーの保護の研修を実施している。問題があれば会議で話し合っている。	研修では「パット交換時は居室の戸を閉める」「トイレへの誘導時の声かけに気をつける」「申し送り時の本人が特定できない様な言葉の使い方」を学び、常に入居者の羞恥心や尊厳に配慮した介護を心がけている。気になる職員の言動が見られたらその場で管理者が注意をしたり、職員同士で注意が出来る関係である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者への話しかけを日常的に行い、思いを聞き取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその人らしい生活をご本人の希望に出来るだけそえるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の支援、またその人にあつた好みの服装が出来るよう気配りしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食は仕出し弁当や寿司を外注したり、誕生日には好みのケーキを外注していつもと違う雰囲気を楽しんで頂いている。	高齢化や重度化で食事作りは利用者と一緒に出来ないが、利用者にはお盆拭きをして貰っている。食べる楽しみを大切に考え、各ユニットで職員が旬の国内産の食材を使って自分達の得意な献立で提供している。生ものや寿司等は行事の時に仕出し屋からとっている。誕生日にはケーキを買ってきて、いつもと違う雰囲気を楽しんでいる。家族と外食に行かれている方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に1日の水分量、食事摂取量を記録し確認している。各自に応じた刻み方、トロミの補充をしている。		

京都府 京都壬生ケアセンター そよ風 (たんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施。自立の方には声かけを行い促す。訪問歯科との連携を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表で確認。その方のパターンに合わせたトイレ誘導。トイレサインを見逃さないように職員間で声かけしている。	トイレでの排泄を基本とし、寝たきりでテープ式のおむつをしている人もリクライニングの車椅子で誘導し、2人介助で便器に座わって貰っている。トイレ介助が必要な方17人で、一人ひとりの排泄チェック表や排泄サインを見逃さないように、職員間の連携を大切にトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便となるよう、起床時に牛乳や飲むヨーグルトを飲んで頂いて、15分から20分経ってから朝食を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎回お湯を入れ替え、ゆっくり入浴して頂いている。汚染がひどいような場合はその場ですぐ入浴して頂くようにしている。	入浴は、週2回、一日に3人の方が1対1介助でゆっくりと会話を楽しみながら行っている。さらに希望があればシャワーも随時している。また、個別のシャンプーや石鹸も要望に応じている。入浴をしない日はトイレのウォッシュレットの洗浄で気持ち良く過ごせるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体力を考慮し、昼寝が必要な方は誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々のお薬説明書を確認出来るよう設置している。追加薬があれば何故必要なのか申し送りで共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせた気分転換、役割作りを心がけている。		

京都府 京都壬生ケアセンター そよ風 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な戸外の散歩は職員体制上なかなか出来てない。リビングで歩行練習やユニット間の行き来を楽しんで頂いている。外出レクは数回に分け小人数で出かけるようにしている。	可能な限り職員体制を工夫して戸外に出るようにしているが、現状はリビングやユニット間の行き来で楽しんで貰っている。外出レクは、併設のデイスービスの車で、少人数のドライブを楽しむことがある。日中は、ユニット間は自由に行き来が出来る。	外出の出来ない方が増えてきているので、外出の楽しみが味わえるような、支援方法の工夫を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の理解が困難な方が多く使い方が分かりにくい。また理解が少しあるような方は家族様が所持を望まれてない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙については受け渡しをしている。電話口で要望があれば本人様とお話して頂いている。こちらからも本人様と変わるか聞くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけをしている。臭いについては、消臭スプレーを常備し換気を心がけている。温度、湿度は毎日記録し気を配っている。	広いリビングは整理整頓が行き届いており、利用者の作品や思い出の写真等を飾りつけている。利用者はぬり絵やチラシを折ってごみ箱作り、毛糸を編む等の手作業を楽しんでいる。また、気温や湿度を記入したり、洗濯物たたみ、お盆を拭く、金魚に餌をあげるなどそれぞれに出来ることをしている。ユニット毎に利用者同士の関係を配慮して共用空間は設けている。3人がけのソファを廊下に置き利用者各々好きな場所で寛げるようにもしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れたテーブルやソファで思い思いに座って頂けるようしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ馴染みの物を自宅より持参して頂きなるべく自宅に近い環境で過ごして頂くように、家族様にお声かけしている。	居室には大きな備え付けの収納家具があり、年間を通した衣料などの収納ができるようになっている。本人と家族の思いを反映して、人形や孫の写真等で飾り付けられているが、おおむね簡素でゆったりした空間が保たれている。部屋で寝たきり状態の利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印を作ったり、置き場所の工夫をし自身で分かりやすく動作できるようにしている。		